へ13
3815
4

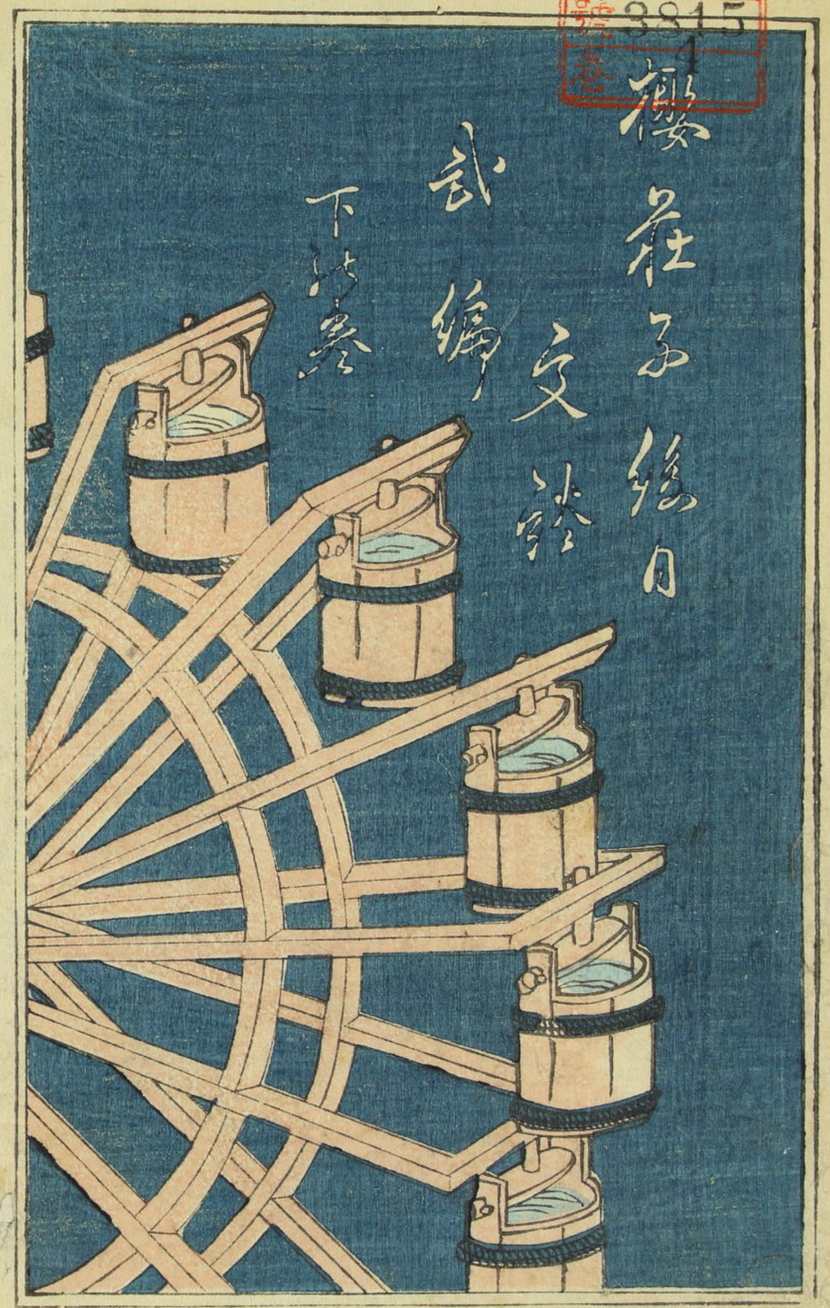
門へ13
號3815
巻1

櫻花五線月

武編

交詩

下詩巻



伏見海道の場

大入可立場

左
隼
五
玄

つづき　ねづひらで　これども　おとうあげるた　ぬ
よんどころ　ろくかくの　ちあいせで　ぐろまる
五平太　とつかへ　ゆん　大せの　あとまろ
つり「ニのろうどく　ねづひが　あくび
のんあのくちのそ　ねづふべさふ　ぬく
とさうらびて　百せうぐも　ちのうち
ろうぐのそるの　三三ぬ
うちへちのてねづくとらふふあう
ふいごのんへたらくんと　ちるもあう「ぶニのく
ぬのうちたのまびちぶら　五平太いうそ　ふッ
ねトぶよあきろう　ぬーうろ　ちぶうてんうん
くきちだうろ　ぬーうろ　ちぶうてんうん
トあどせが大せの「さアちぶうつせく
トコあろまそさちぶの五平
太ぬあぬーてあんとぶんば
ぶのあのらふりかきる
せとトうがんたいうそ
ふうんきふぐものたさ
らきふぐきのちだう
ニのくいうちぬものと
らぬくらうそろう
ちゃつんあども
よういせよトせうろう
をうろう上むうたのとうぐきうて
ちうれよんだぶの「ぶぐあうあ

▲そのろうぐも
えとごうろう上むうえいたさ
ぬもうたのごまんぬのみ
さまくごうたの▲

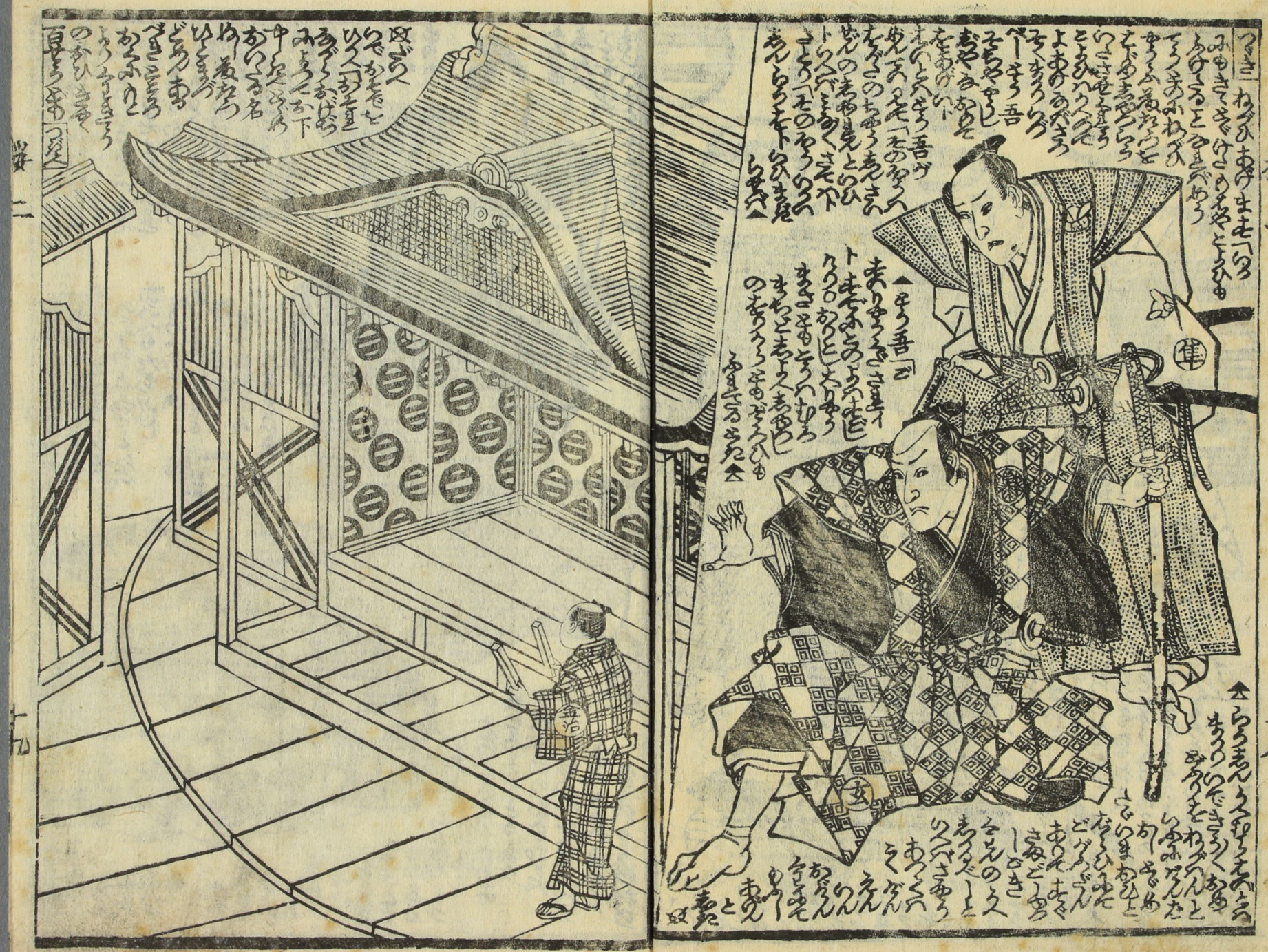
▲ちぶくねづひ
うぐのうぐひゅうだが
あるみまいたのうた
いわづひのうるふゅう
みてぶさるまうぶ
ぬんあの
てねづひ
ちよをき
あげようたの
ぶうろ五へ
ぶりんあのうた
うんとちるんだ
ちうのメ

×さくべぬたぶめ

みうるうちをあそ月ぶ百せうぐも
のあのふるまひもいふふたのた
「アもあく　ひゅうぐ　ぐそれ
ぬたいとうやさぶ
まぶうう吾とヤ
スめのちうぐ
あらうそれ
をうとう
よびいぐ
されよト
きう
ふちぐひうふの
さうまうちらぐく
「ニのうちふあさう
うう吾とヤス
めのいあらぬう
ハイく　これふ
をう
まぶ
るト
ぐ
がめそちう
らるをさぶま
いうそうみて
「ヨリやく　ぐう吾▲

▲ろんと
うう吾ぐたつるエたうまく
ひりとうくとふゅうう吾うまのめく
いふゅう「ひるうふ
きうくふエたうの
ぐ月ふちので
をきるさぶま
まぶあうーるエとまぶコーふとう
ぬねぶそうえそのうくぬそまうく
うまのまゅうとうちあのふいぐるエ
もあうろうれどふ下まぶニのむを
ぶうそあうくアよまうくふく
まうそぐぎ月ト　たせのめとび
ぶぐあ　ぶくてぐう吾ぶさぶまぶ
あとついたぐれのうちゅそりふける
たのとげんた五平太うまうくおるうびそ
さぶまぐう吾ふむうひぐらう
「つづく

玄
集
五
左
富



並木五柳綴

錦朝樓芳虎画

假名垣魯文校

文久二壬戌春開板目録

花袭狐草紙 初編ヨリ三編マデ 假名垣魯文作 當年出板 錦朝樓芳虎画

魔夫織三妖婦五垣 此稗史ハ狐狸の善悪を人情世態よろづ有りくく喜怒愛楽紙面白く著綴りくる新作編者ゲ一時の戯墨とゝ雖も其條々本据ゑ所ゝ今様の流行をのがれらぐちし奇々妙案かゝるゝ求めく御覧のゝど偏ゝ移ひたまへ

教草女房形氣 芸編 秀賀作 芸編 國貞画

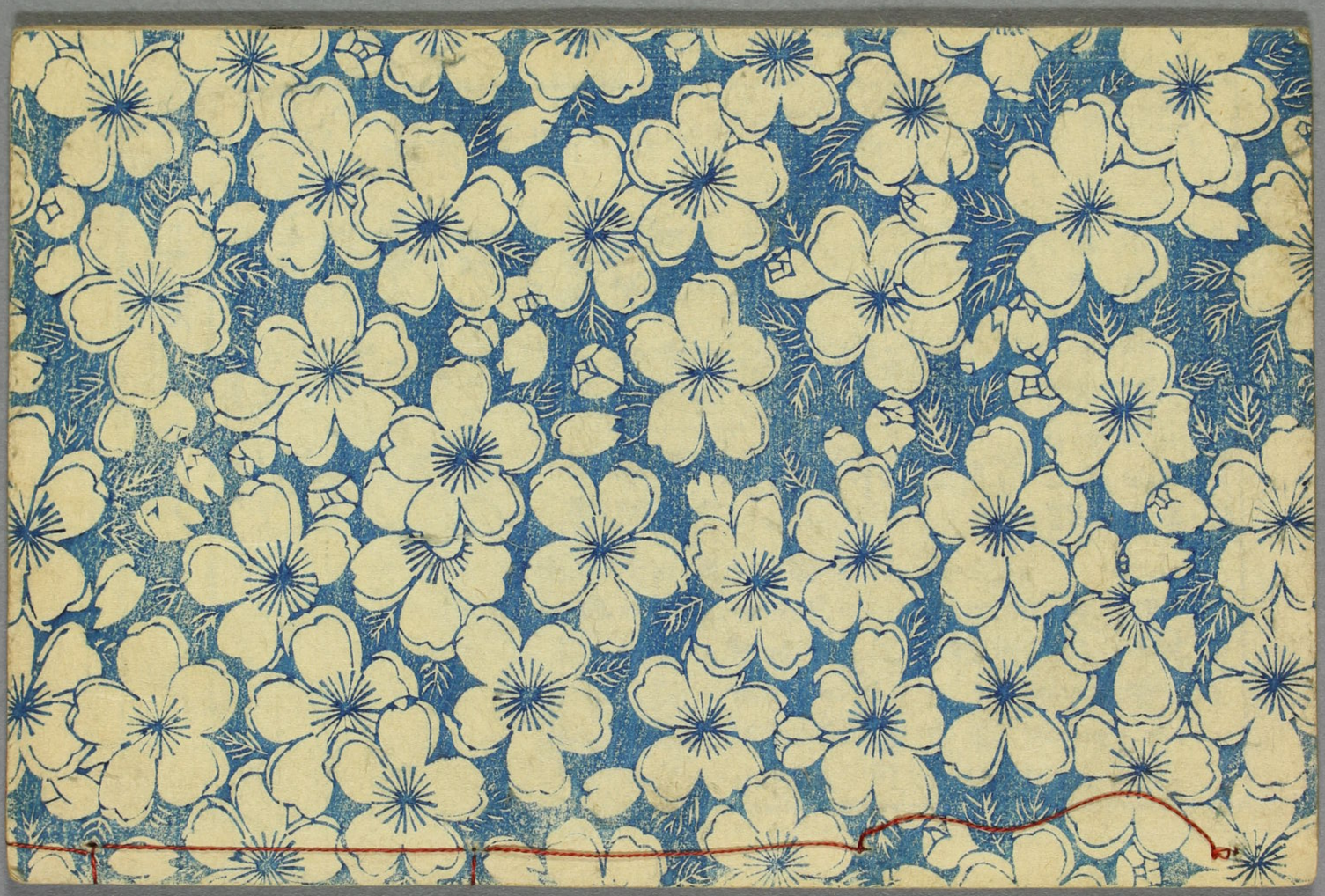
櫻井荘子後日文談 初編ヨリ五柳綴 引續 魯文校 出板 芳虎画

御所櫻梅松録 四編 秀賀作 五編 國貞画 六編

萬國人物圖繪 二編 魯文作 三編 芳虎画

御所奉公 **乃日記** 十編 應賀作 十三編 芳虎画

童繪解萬國噺 四編 魯文作 五編 芳虎画

売 地本問屋 錦橋堂 山田屋庄次郎板

南傳馬町二丁目